

「社会を変革してきた女性たち」追加資料

たかいち さなえ
高市早苗

政治家

奈良県

1961[昭和36]年3月7日～

出身校:神戸大学

政治とは無縁の共働き家庭で育つ

高市早苗は、奈良県に生まれ、政治とは無縁の共働き家庭、エンジニアの父と警察官の母のもとで育った。幼い頃から共働きの両親を手伝い、自立心と責任感を培い、その姿勢は学生時代にも貫かれていた。高校時代、大学時代にはアルバイトに励みながら、音楽（ハードロック）やバイクといった趣味にも親しみ、行動力と独立心を育んだ。神戸大学経営学部で学んだ後、松下政経塾に入塾し、松下幸之助氏のもとで学ぶうちに、当初学んでいた経営から政治へと関心を移していく。

単身渡米して下院議員事務所に勤務

松下政経塾在籍中には単身渡米し、アメリカ連邦議会のパトリア・シュローダー下院議員事務所でインターンとして勤務し、さまざまな経験を積む。帰国後は、政策研究や著作活動などを通じて知見を深め、日本の進むべき方向について思索を重ねていく。そして1993年、衆議院議員に初当選。以来、日本政治の第一線で活動を続け、総務大臣、経済安全保障担当大臣、党政調会長など数々の重要な役職を歴任してきた。政策面では、経済の活性化に加え、科学技術の振興やサイバーセキュリティの強化など、日本の将来基盤を支える分野に力を注いできた。

その歩みは決して平坦なものではなかった。政治の世界は長らく男性中心であり、女性が指導的立場に立つには高い壁が存在していた。しかし高市は、その壁を一つ一つ乗り越え、ぶれることなく、信念を曲げずに前進を続けてきた。「強い経



出典：首相官邸ホームページ

済」「安全な社会」「誇りある国家」という理念のもと、現実的かつ実行力ある政策を磨き続けてきたのである。過度な結果平等ではなく、誰にでも挑戦の機会が開かれている社会こそが重要であるとの考えを持ち、リスクをとって努力した者が報われる環境づくりを重視している。その背景には、自らの信念に従って政治を行う姿勢をもつ英国首相マーガレット・サッチャーのリーダーシップへの深い敬意もあった。

日本初の女性総理大臣へ

そして2025年、自由民主党総裁に選出され、日本初の女性総理大臣として歴史に名を刻むこととなった。女性が政治の最高指導者となる時代の到来を象徴する出来事であり、日本社会にとって大きな転機となった。くしくも2025年はマーガレット・サッチャーの生誕100年の年であった。

高市の姿は、多くの働く女性に勇気を与えている。進路や人生の選択に迷うとき、「自分の可能性を信じて挑戦する」というメッセージを体現する存在だからである。社会が変化し続ける現代において、女性の活躍は特別なものではなく、当然のものとなりつつある。その先頭に立つ存在として、高市の歩みは大きな意味を持つ。夢を持ち、学び、努力を重ねれば、どのような分野であっても道は開ける。次の世代がより自由に、より大きく羽ばたくために。その道を照らす光の一つとして、高市早苗の挑戦はこれからも続いていく。